

|          |   |      |                     |
|----------|---|------|---------------------|
| 業務名称     | 別府市図書館・美術館整備基本構想策定等業務委託   | 協議日  | 2016. 11. 28        |
|          |   | 協議場所 | 別府市役所<br>4階 4F-3会議室 |
|          |   |      |                     |
| 出席者      | 中山委員長、平石副委員長、田中委員、鶴田委員、山出委員、中村委員、須股委員、澁谷委員<br>池田委員、豊田委員、渡辺委員、加藤委員、明石委員、大鶴委員、大津委員、松岡委員<br>(総合政策アドバイザー)：花井氏   |      |                     |
|          | 別府市教育庁生涯学習課(事務局)  |      |                     |
|          | アカデミック・リソース・ガイド(ARG)  |      |                     |
| 01. 資料   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会次第</li> <li>・委員名簿</li> <li>・図書館建築及び運営コストについて</li> <li>・近隣都市の現状からみた見た図書館・美術館のあり方について</li> <li>・別府市ならではの図書館・美術館のあり方は？</li> <li>・広報ツール等のご案内とご協力をお願い</li> <li>・別府市美術館の常設展のご案内(パンフレット)</li> <li>・ライブラリー・リソース・ガイド(LRG)別冊3号</li> </ul>  |      |                     |
| 02. 検討事項 | <b>第2回 別府市立図書館及び別府市美術館整備基本構想検討委員会</b>   |      |                     |
|          | <b>要約：図書館のあり方を考える。</b>  |      |                     |
|          | <p>■委員紹介<br/>(事務局) 今回初出席となる委員3名のご紹介。</p> <p>【議事】</p> <p>■1 「第1回まちから考える図書館・美術館づくりワークショップ」について【報告】<br/>(委員長) 今回は図書館に絞って議論をしたい。はじめに昨日開催されたワークショップについて事務局から報告をお願いする。</p> <p>(ARG) 昨日のテーマは「まちと本と図書館」ということで、今回の委員会のテーマにあわせるかたちで開催した。全体の流れとしては、まずはオリエンテーションを行い、図書館・美術館整備基本構想策定についてと、近年の図書館・美術館づくりの実施例を一般の方向けに説明した。その上で、ワークショップの内容と、このワークショップがどのような目的を持つのか、市民のみなさんが参加することで新しい施設づくりに関わっていくということをお伝えし、まち歩きをした。オリエンテーションの間はずっと雨が降っており、ぎりぎりまでまち歩きが実施できるのかどうかという状態であったが、ちょうどオリエンテーションが終わるタイミングに合わせるかのように雨がやみ、なんとか実施できた。まち歩きは4つのチームに分かれて行った。エリアを2つを設け、1つは市役所や別府公園を中心とした文教地区、もう1つは駅と中心市街地の商店街を含めた駅前周辺として、2チームずつが分かれてまち歩きを行った。まち歩きをしながら、「まちと本と図書館」というテーマにつながるような、図書館は単に本を読む場所であるだけではなくて、人が出会う場所であったりだとか、そこで様々な活動が行われる場所であったりするという議論も出てきた。まち歩きは1時間強で、市役所に戻ってからは各チームで地図に気づいたことを貼っていった。その地図が後ろの壁に貼ってある</p> |      |                     |

ものである。A 班と C 班が駅前中心市街地、B 班と D 班が市役所や公園の周辺エリア、それぞれ地図を作成した。委員会の終わった後にご覧いただければと思う。その後、中間発表をさせていただいたが、あくまでもワークショップは 3 回続き、3 回目が最終の発表なので、成果品というよりは、昨日のワークショップでみんなが気づいたこと、課題に思ったこと、可能性を出して、中間報告として発表させていただいたというかたちである。実際にまち歩きの効果は非常に大きかったと考える。別府の特性として、例えば商店街や駅前のエリアなど、路地がたくさんあるが、そういったところで様々な本に関する出会いがあった。若い参加者が多く、あまりまちのことを知らなかったりしていたが、実際に歩いてみて「こんなところにも本との関わりがあるんだ」というような気づきがかなりあったと思われる。そういったかたちで、気づいたことからどういう可能性があるかということをおみなさんに出していただいた。これは最終発表ではないが、大きなハコとしての施設というよりは、まちにいろいろなものが点在しているのが別府らしさではないかというのが、4 つの班の方向性として出てきたと思う。これはまだ第 1 回目である。第 2 回目は美術館を中心に同じようにまち歩きを行うが、そういったことを 2 回重ねる中でより議論を深めていき、別府らしさのようなものがまちの中から感じられて、この施設づくりにつなげていけるようなものになっていけばと思う。最初に報告すべきだったが、昨日の参加者は全部で 19 名だった。22 名の予定でしたところ、天候の関係もあったかと思うが 3 名が欠席された。19 名の参加者の他、傍聴参加の方が 2 名、うち 1 名はまち歩きも実際に参加された。委員も 5 名参加いただき、サポートをさせていただいて非常に助かった。若い方の参加が多い中、最高齢は 70 代で、要所要所に大人の方が混ざることによって、いいバランスでワークショップが進められたかと思う。われわれの経験から見ても、1 回目からここまでエンジンがかかるケースは実は珍しい。こういった積極的な議論になるのは時間がかかって、1 回目はあんまりエンジンがかからなくて 2 回目くらいからということが多いのだが、昨日は若い方が多かったこと、年配の方々もいいバランスで配置されたことによって、1 回目からかなりエンジンがかかっていたように思う。このあたりは改めてきちんとした形で報告させていただく。次回は 12 月 18 日で、このときも 1 回目と同じようにまち歩きをするが、今度は美術館やアートを中心とする。委員のみなさんも可能な限りご参加いただければ、市民の声が直接感じられるかと思う。

(事務局) 検討委員の方もオブザーバーというかたちで参加していただいた。お一人ずつ感想をいただきたい。

(L 委員) B 班について市役所の方を歩いた。基本的な意見としては、まち全体が図書館・美術館というコンセプトが出ていた。例えば、別府には 22 ヶ所の公衆浴場があるが、そこでの本の貸出ができたりする。公衆浴場の 2 階がだいたい公民館になっているのでそこを活用する。それから、スーパーマーケットに今読まれている本が展示されていたり、いろんなところに本と連携した PR をする。図書館という建物をつくるのではなくて、つくった後にどうやって市民と一緒に学習していくかといった、図書館の先みたいなものがとても大事じゃないかという議論になった。いろんな可能性がある。これまでの図書館というのは図書館があつてそこに人が来るようにするものであったが、「来い」というのではなくて、例えば別府公園の芝生の中に移動図書館が来て、お母さんや子どもたちが読み聞かせに参加する日があつてもいいし、また竹林の中でみんなで竹に関する学習会などができてもいい。生涯学習と結びついて、まちじゅうで図書館・美術館をつくっていける、そういうものができるといい。

(N 委員) C 班と駅周辺をまわった。本をどこで読むのかということと、図書館を基点とするというよりは、温泉に入って本が読める環境があつたらいいんじゃないかとか、手湯とか足湯をして本が読めるといいとか、そういう意見が出てきた。基本的には自分は委員なのでなるべく主観的なこと

は言わずに、客観的に見ようかなと思って、極力意見を言わずに参加した。全体としては、サザンクロスまで行って見て、駅前をずっと駅まで戻っていたかたちだったが、シャッター街の商店街を歩きながら通った時に、学生さんが中心でシャッターにアートのようなデザインを描いているところを見て、こういうまちの風景とか、古い店とか、店舗の外観とか、風情を残しながら図書館や美術館について考えていけたらいいなということをおっしゃっていて、まさにそうだと思う。ハコモノを1個つくるよりは、民間の図書館とか美術館が別府市にはいっぱいあるので、そういうところと横の連携で、横軸で繋がっていくという全体の仕組みをつくっていくというのも基本構想の中では重要なのかなと感じた。

(O 委員) C 班についてまわった。自分は4月から別府に来て、別府市ではあまり遊ぶ機会がなくて、ずっと大分駅まで行って別府を通り過ぎていたが、昨日始めてまわってみたら、まちの人たちがすごく優しくて、ご飯も美味しそうなのがあったので、図書館と美術館を合わせた施設ができたなら、大分駅に行くよりも、別府市で遊ぼうかなと思った。行きたくなるような雰囲気になればいいと思った。

(M 委員) 昨日のワークショップに出てよかったと思う。どうしても自分たちは検討委員会なので図書館がどんな場所にあればいいのだろう、どんなかたちをつくれればいいだろうとか、どんな図書館だったら行きたくなるんだろうとか、上の方で考えていきがちだが、ワークショップに行って、単純にこんな図書館だったら行きたくなるかなと、みなさん考えながら歩いていった。その中でみなさんがおっしゃったのは、別府公園で本を広げて読めたらいいなとか、まちじゅうにいろんな図書館があったらいいなということだった。自分は大分県の方に行くことが全然なかったのだが、大分県の施設ではパンフレットが置いてあったり、こんなことを大分県ではやっているという情報がたくさんある。こんなところもあるのか、勉強するところもあるんだと、改めて発見することがあった。その中で、やっぱり図書館には、そういったものが兼ね備えてあるといいと思った。図書館に申し込んだら、自分たちの会のイベントが紹介できて、みんなが来てくれて、いろんなイベントができる。反対に、こんなイベントがあるからみんな来てみない？ というふうに、大分県だったらこんなことをやっているから、みんなもやったらどう？ とか、図書館を拠点にしてみんなが遊べる空間でもいいよね、という話も出た。そのように、中心に楽しいスペースがあるというかたちでもいいのかなという意見もあった。うちの班ではなかったが、移動図書館の車にラッピングをしたらいいんじゃないかという意見も出た。アドバイザーからもそれは実現できるよという意見が出て、あらためて自分は、この委員会のメンバーはできるだけ参加するべきだと思った。出て、生の声を聞いて、自分に響かせないと市民の声が聞こえない。聞こえないままコンセプトを考えていいのだろうかと思いながら一日を過ごした。中学生や高校生、大学生、一般の方が、どんな図書館をつくってもらいたいのかというアンケートを取るのも一つの手だと思ったし、来年の3月までにそういうことをつくるのならどんどん推し進めていかないと間に合わない、みなさんからいろんな意見を出してもらって改めて感じた。

(J 委員) A 班に参加した。シャッター通りから少し奥の狭い路地に入ったところに新しいお店がたくさんあった。潰れてなくなっている店もある一方で、組み立てただけのような外観でお料理を出しているお店もあつたり、最近つくられたばかりなんじゃないかというお店もあつて、どんどん知らないところでお店が入れ替わっているのだと気づいた。1ヶ月後に行ったらまたお店が変わっていたりするのかなと、定期的に行かないと、普通に住んでいるだけではわかりづらいのだなと思った。自分は別府で生まれて別府で育ったので、図書館のあり方はこれが当たり前だと思っていたが、話し合いの中で「移動図書館の外観のデザインが怖い」という意見が出てきたときに、たしかに古くなって、ホラーっぽい感じの空気を出しているところもあるが「あのデザインって怖かったんだな」と、ずっ

とあたりまえに思っていたので、新しく見た人にはそんなふうに見えるんだなと驚いた。実際に言われてショックを受けた。面白い発見もあって、ワークショップ自体が参考になったのもあるが、楽しかった。

(事務局) アドバイザーから総括として、ワークショップの講評をいただきたい。

(アドバイザー) D班について一緒に歩いた。若い人たちと年配の人間が歩くということにすごく意味があったと思った。自分はよそ者だし、地元の方々とテーブルだけではなかなか意見交換ができないが、体を動かすことによって見るものに対してのアプローチが出てきたと思う。図書館・美術館だけを念頭に置くのではなく、まちをどうするかと考えながら歩いたから、この結果が出てきたのだろう。発想の転換がまさに起きている。図書館はハコでいい、ということではなくて、まちじゅうを図書館や美術館みたいにしてしまおうという発想も、すでに第1回から出てきている。自分はいろんなところでワークショップに参加したり、ファシリテートしたりしているが、かなりレベルの高い一日で、寝るまで興奮していた。雨も上がってよかった。

(委員長) 参加した委員のみなさんの話で共通していることは、まちじゅう、まるごと図書館がいいのではないかという感想をもったということではないだろうか。自分は昨日は参加できなかったが、次回から参加したい。1回目からまちじゅう図書館という発想が出てくるのは大変素晴らしいことである。別府というまち自体、山出委員や、ボランティアガイドが20以上前からやってきたことが市民の方にも意識のどこかであって、それがまちを歩くことで開花したのではないかと思う。考えてみれば、別府市が「まちじゅう」という考えに馴染みやすいまちなのかもしれない。他の委員から質問や意見はあるか。

(K委員) N委員らがリアルタイムに写真をFacebookに上がってくださっていて、見ていて楽しそうだなと思っていた。楽しいのがいちばんで、発見や気づきがあったのがいいところだと思う。プレゼンテーションのビデオがもしあれば見たい。共有の機会はあるか。

(事務局) 映像記録を撮っているので、何らかの方法で公開したいと考えている。

(G委員) プレゼンテーションを番組にするとか、YouTubeで流す予定はあるか。

(事務局) 写真なども含めて、どこかでまとめるようなかたちで希望にそえるようにしたい。

(C委員) 参加された方の年齢層は? どんな意見がどの年代から出たか。

(ARG) 19名参加のうち、大学生6名、高校生4名、中学生1名、それ以外は一般の方だった。各班に事務局がファシリテーターとしてついてるので、どなたがどんな意見を出したかおおよそ把握はできている。まだ集計はできていないがなんらかのレポートを作りたい。若い方が多く参加していた。チーム内のベテランの方が若者たち意見をくみ上げながら、みんなでまとめていくかたちだった。素晴らしいコラボレーションで、若者の声にベテランの方が耳を傾け、ベテランの方の知識や経験を活かして新しい提案になっていくというふうに、若い人たちの声を増生し育むかたちで意見が出てきていた。

(L委員) 最後に一斉に意見を出し合うのではなくて、歩いているときからいろんな話をしている。誰からこの意見が出てきたというよりは、みんなで協力した中から意見が出てきたというのが本当だと思う。

(C委員) 危惧するのは、若い人の意見に押されることである。障害を持った方の声や、年老いた方の声は聞こえたのか。

(M委員) どのように告知をしたのか。次のときには、もっとたくさんの方が参加してくれればいい。そこを広げていかないと、みんなの本当の意見は出てこない。

(C委員) 先行事例では、10年や20年の時間をかけているようだ。わずか2時間で検討した意見で

は危険である。

**(M 委員)** その通りである。たくさんの時間をかけてやっていかなければいけない。例えば、「図書館を考える会」という会もある。そういう方の意見も聞くべきである。

**(K 委員)** それなら、この場やワークショップ以外で委員が集まったり、ワークショップをすることは可能か。そういったものを開いて、そこでの意見をくみ上げて委員会で話し合った方が、建設的な意見の話し合いができるというのであれば必要だと思う。障害を持つ方や、お年寄りの方を集めるのには、どうすればいいか自分にはわからない。しかしこの委員会にはいろんな年代の方がいるので、そこが強みであると思う。この委員会で話し足りないというのであれば、他の日程を設定して、その方々に集まっていただいて話し合いをして、そこで話し合った内容を委員会に持ってきた方がいいのでは。時間が無いというのであれば、多くすればよい。

**(事務局)** 事務局の中で話し合ったことではなく、自分個人の意見ではあるが、C 委員が発言された若い人たちの意見に偏りすぎではないかという意見に対しては、この委員会の中ではこれから 10 年 20 年経つ中で、やはりたくさん施設を使うであろう若いひとたちの意見は大事にしたい。それは決してベテランの人々をないがしろにするわけではない。昨日のワークショップでも若い人たちが半数であったが、その中でベテランの方々にもいろんな意見を言っていた。昔の話を年配の方がすると、「そういう歴史があったんだな」と若い人たちが吸収していく。その中でベテランの方と若い方が融合するようなかたちを目指したい。昨日は、最高齢は 78 歳であった。ハンデをお持ちの方がいらっしゃった場合はできる限りサポートしたい。これから 2 回、3 回と、新しくいろいろな方を募集する。K 委員が発言された、そういった方たちと話し合って意見をまとめていくということでは、例えば公会堂中央公民館をつくったときには、バリアフリーについて協会の方と話をして設計をした。ハンデをお持ちのかたも含めて意見は吸い上げるべきである。やり方はいろいろあると思う。今回については基本的なあり方を検討する段階なので、議論が進んでいく中で取り入れていければと考えている。

**(L 委員)** 自分は参加するまでは、ワークショップはたいしたことないと思っていた。参加すればわかる。とてもよかった。ある程度サンプリングすると、ほとんど同じような意見が出てくる。若い人におしこまれるのではなく、本当にうまくいく。おそれいったと脱帽した。

**(C 委員)** 自分は今の図書館に足繁く通っている。利用者のほとんどは高齢者である。その次は、小さな子どもを抱っこした女性が大半である。身障者の方にはバリアフリーでないので使いづらいし、交通の便も悪い。若い人の意見が悪いのではないが、マクロの意見が出てきているのではないかと危惧している。

**(アドバイザー)** 様々な方の声を聴くのは当然のことである。別府はまだ検討委員会も 2 回目、始まったばかりである。基本構想の段階で、次の基本計画で初めて設計の話になる。今はまだスタート段階なので、もう少し様子を見ていただきたい。

**(N 委員)** バリアフリーの話は学生から出てきた。例えば不老泉の前とか、流川通りは歩道が狭い。子どもを連れていっていると危ないという話をしていたら、実際にそんな場面を目にした。図書館の前は道が広いといいというのは学生から出た意見である。自分もワークショップはたいしたことはないのではと思っていたが、発見が多くて非常に楽しかった。自分が生まれ育ったまちを一步引いたかたちで見られるのがいい経験だった。気になったのは、別府駅周辺に向かう班は亀の井バスを利用した。学生は市が負担したが、一般の方が実費を払って鉄輪まで行くようなシーンがこれから出てくるかもしれない。自分は会議ではお茶はいらないので、その分を他の方に還元するとか、あらかじめバスなど交通費は実費であると連絡したほうがいい。

(L 委員)「子どもがおきざりになっている」と心配しているのは中学生だった。若いから考えていないのではない。

(委員長) まずは3回ワークショップをやってみて、もう少し時間をかけて整理をすべきとなれば、分科会を設置するという可能性もあるだろう。まずは3回ワークショップをやってみないか。

## ■2 図書館建築及び運営コストについて【報告】

(ARG) 別紙の通り報告。

(委員長) 大合併をした自治体や、建築デザインなどによっても違いがある。

(C 委員) 最近の合同新聞で、杵築市の図書館の予算は約7億円だと目にした。中津市は、民俗資料館に約10億円の予算を組んでいるようだ。

(D 委員) 同じ形式で別府の現状データが欲しい。

(ARG) 承知した。

(P 委員) まだコストの話をする段階ではない。さきほどの意見の聞いていて感動した。多くの委員会に出たが、こんな委員会は初めてである。学生から学識者までイーブンで議論できて、しかもワークショップが併行している。この場で閉じずに、まちに出ていく委員会は素晴らしい。ひとつ提案だが、すでにこの場合は図書館・美術館をつくるプロセスをデザインしている。プロセスは大きく分けると、準備、設計、運営の3段階がある。運営は数十年に渡る。できてから3~5年はフィードバックが可能である。今この時点から、議論のテーブルを持続していくべきである。学生の委員は就職もされると思うが、ネットなどで長く関わるのが良い。長く議論のテーブルを用意している方が成功する傾向にある。ぜひ検討していただきたい。意見をうかがっていると、図書館のことを考えているが、すでにまちのことを考えておられる。「この道は危ないよね」というふうに、まちづくりの視点にシフトできている。この基本構想は、実はまちづくり委員会なのではないか。このメンバーは、まちづくりの視点を教えてもらう、人育ての委員会になってきているのではないか。この施設をつくる「コスト」と言うと負担に思われがちだが、ここにいるメンバーやワークショップに参加した方が、これによって育って、まちづくりに参加するようになれば、実は安いものとも考えることもできる。コストは長いテーブルを維持するためのメンバーづくりと考えれば、価値もつくっていていると言える。自分は別府の人間ではないので過大な期待かもしれないが、別府はもともと風通しのよい場所である。図書館もそういう精神を持つ場所になるといい。市民しか使えないのではなく、APUや観光客、通りすがりの人も行きたいと思うような風通しのいい図書館ができると別府らしいのではないか。立派なハコだけが図書館ではない。空き家はものすごい数ある。全国で800万戸を超えるほどである。大分県だけでも10万戸はあるのではないか。それらをうまく使おうというのは、別府の風通しの良い文化とマッチしている。図書館や美術館には駐車場が必要だったが、観光客やお年寄りなど、車を使わない人のために行く手段を考えるべきである。駐車場依存型でなくてもよいかも。佐賀県の武雄市では、返却のために図書館行く必要は今後なくなっている。図書館と関わる人との距離はいろいろある。そのようなデザインもこの中に盛り込んでいけるといい。

(C 委員) 図書館や美術館はコンクリート建築が多いと思うが、大分県には立派な材料がある。竹などを使って、気持ちのいい建物ができればいいと思う。かつて高等学校の体育館を建てるときには杉を使ってもらった。

(P 委員) 賛成の意見として補足する。今まで公共建築物は、建築基準法という法律に基づくと、木造では造りにくいようなケースがほとんどだった。火事、耐震性の問題があった。近年は国が規制緩和をしている。林業から人が撤退しているとい背景で、もっと国産材を使おうという動きが強くなっ

ている。木材を燃えにくくする技術も発展しており、法律もこれからさらに変わっていくと思われる。

(L 委員) イニシャルコストをなるべくおさえるべき。それより、図書館は何の本を選ぶのか、ちゃんとした司書がいるのか、という本当の意味で内容の充実したものにすべきである。児童図書館としてはおじいさんの杜図書館がすでにある。ランニングコストにお金をかけるべき。

(ARG) ライフサイクルコストには人口減問題が大きく関わっている。人口が増えると税収が増える。地方交付税交付金の給付額は、人口をベースにして決まる。大分県の場合、日出町を除くすべての自治体で、右肩下がり人口が減ってきている。これまでの右肩上がり人口が増えていくと想定した計画では施設運営費を捻出できなくなる。長期スパンで、人口がどのくらい減っているのか、その中で自治体の歳入、原資としてのお金はどのように減っていくから、どのくらいの運営コストをかけるのかを正確に算出していく必要がある。これを考えて置かないと、青森市にある巨大な商業施設「アウガ」のように、図書館が入っている上層階と地下階以外はほとんど空いてしまうようなことになる。イニシャルコストを抑えることと、管理運営費をどのように捻出していくかを考えていかねばならない。ただのハコとして考えないほうがいい。図書館は利益があがる施設ではない。人づくりのために資する施設である。

(G 委員) 別府市婦人会の会長がいつもおっしゃっているのは、地域に公民館があるが公民館までも歩いていけない、近所に自由にお茶をのめる施設が欲しいということである。ハコモノでなく、拠点がいくつもあってもいいのではないか。

(アドバイザー) 小布施町のまちじゅう図書館にはコストはほぼかかっていない。北海道の恵庭市では、53 館まちじゅう図書館がある。太田市でも、35 館の民間図書館が新たな美術館・図書館と一緒にオープンする。直方市でも期間限定で、シャッター商店街に本棚を置いてみようというグループが出現している。日本全国で取り組みが進んでおり、コストがかからずにできている。まちじゅう図書館は自分たちが参加しながらできる。参考資料を次回以降持参する。

(C 委員) そういった事例をまとめて欲しい。

(ARG) 次回委員会までに用意する。

(I 委員) 別府は温泉が豊富にある。地熱発電などのシステムができると暖房費などがカットできる。別府ならではのエネルギーを活用できればいいのでは。

(L 委員) バリューがなんなのがよく考えるべき。費用対効果の「効果」とはなんなのかわかってもらうことが大切である。

(ARG) 基本構想の中にそれを描けるといい。ノーベル賞を受賞された益川敏英先生は、受賞会見で「名古屋市の図書館があるから今の私がある」とおっしゃられた。このまちで育っていく子どもたちがより良い人生をおくるための第一歩としての投資なのだ市民のみなさんが考えられるかどうか。これからつくる構想の中で、図書館・美術館が価値とするのは何かということ盛り込むことが大切である。

#### ■別府市長あいさつ

(市長) 図書館と美術館が一緒ということよりも、機能としての中身を、わくわくどきどきしながら考えていただければよいと期待を寄せている。財政の面を言えば厳しいところはある。また、近隣に同じような施設があるなかで新しいものをつくりあげていくのは難しいことと思うが、市民のみなさんや観光客のみなさんに喜んでいただき、マイノリティのみなさんにも活用していただける施設としていきたい。別府ならではの夢にあふれたものを検討していただいて、実現できるようにしていきたい。最近、ニュースで「湯～園地」の動画が大変話題になっている。実際はイメージ映像で、別府市

全体がスパアミュージメントであると PR するためにつくった動画である。一見馬鹿げているようなことに真正面から挑戦をして、市民のみなさんが「なかなか別府はやるじゃないか」と、特に若い方々が「別府には魅力がない」「自分たちの故郷を誇ることができない」と思うような現状を打開することには役に立っているのではないかと思う。馬鹿げたことでもいいので、夢や希望にあふれた議論をしていただいて、それを実現していくのが、委員のみなさんと私の仕事である。市民のみなさんが別府にいてよかったと誇りに思えるよう、図書館・美術館のあるべき姿を創造していければいいと考える。

### ■3 近隣都市の現状から見た図書館・美術館のあり方について【説明・審議】

(ARG) 別紙の通り説明。

(C 委員) 建築そのものが複雑だと使い勝手が悪い。県立図書館はオープンの日が大雨で雨漏りをした。また、中が複雑過ぎてわかりにくい。もっとシンプルなもの、コンクリートでなくて、別府の杉、ひのき、竹などを使ったやわらかい建築にしてほしい。すべての人が楽しめる、学びの場、子育ての場、交流の場、情報の場であってほしい。図書館と美術館、博物館、特に博物館については「温泉博物館」としたい。滋賀県大津市には「滋賀県立琵琶湖博物館」がある。図書館、美術館、博物館をまとめた文化ゾーンというのが自分の理念である。

### ■4 別府市における図書館のあり方について【審議】

(ARG) 別紙の通り説明。

(C 委員) 県立美術館は、一度行ったら行かないと言う人が多い。中のものはそろっているが、周囲は鉄筋の建物ばかりで冷たいイメージである。大分市美術館は食堂が人気のようだ。小中学生も利用し、芝生も使われている。

(K 委員) 昨日のワークショップでほしい答えが出ているのではないか。温泉の上に公民館があるのならそこを活用すべき。まちじゅう図書館は別府で可能なのではと思った。まちじゅう図書館を空き家や公民館で行えば良いし、美術館はアートマンスとしてすでにまちじゅうで行っている。閉じてしまった温泉でも展示をしている。そこで温泉の歴史も美術も知れる。そこを運営している方の本も置いてある。別府ではもう実現している場所もちらほらある。わざわざ遠くの施設までバスなどを乗り継いでいくよりは、まちの中にある場所で集えるのがいいのではないか。

(委員長) 素晴らしい意見ではあるが、きちんとしたキュレーター、学芸員がいる美術館がないと、特別展も開けない。他の美術館から作品を貸してもらうことも難しくなる。

(L 委員) 核になる施設、専門性と大衆性は必要。別府には「太陽の家」もあり、多様性がある。世界中の温泉のことがわかるというところが部分と、フラットにみなが集える部分が必要である。マイノリティな人々の美術館は別府にもっともふさわしいのではないか。

(ARG) アートマンスに出展されている方の声をうかがった。公民館は、これまでの歴史的な文脈に縛られ過ぎていて、自由な表現が難しいという話であった。今分散して行っている取り組みも、まだまだ良くなるポテンシャルを持っている。

(M 委員) 図書館は絶対にあるべきだと思う。すばらしい建物でなくても構わない。子どもたちを育てていく場所である。伊万里市では「家読(うちどく)」などの取り組みをしている。ハコモノではなくて、育てていけるような図書館でないか。実は別府市にどんな所蔵品があるのか、学芸員に資料をまとめていただいた。それを見た上で、収蔵品を持たない美術館の可能性について考えてもらいたかった。現在はいろんな場所でアートイベントがされているが、体が不自由な方が個展



を見られるようなスペースがない。個展をする場所も無い。美術館の館長も、現在を知ってもらいたいと言っている。現実を見据えた上で美術館や図書館を考えるべき。

(C 委員) まちじゅう図書館・美術館という言葉には賛成する。しかし、図書館とは何をするのか。ただ地域にある書物を地域の人に見せるだけでなく、子育て、学習の場、市民が交流をする、情報を提供するといったものでなくてはいけない。今の図書館は孤立している。これからの図書館は地域に開かれた、人と人、人と組織をつなげる交流の場にしなければいけない。インターネット等の設備も大事である。理想としてはまちじゅう図書館はいいが、現実としては無理だと思う。

(委員長) 現在の司書、学芸員がもっと生きがいをもって働けるように、意見を汲み上げるべき。本来の機能を守ることも必要である。

(K 委員) 子育てとおっしゃったからこそ、まちじゅう図書館であると考え。別府市立図書館で、本を読んでいる方は一桁ほどに過ぎない。それ以外は中高生で勉強のため来館している。図書館に行って本を読んでいる人は少ない。立地の問題もあるし、蔵書の問題もあると思うが、もっと行きやすくするには、新しく図書館ができて同じなのではないか。純粋に本を読む文化を作らないといけない。公園でおひさまを浴びながら本を読むというのはありだと思う。近い場所にないとお母さん、お父さんが連れて行かないと子どもたちは行けない。公民館も、温泉も別府にはある。温泉をもとにして、地域住民のコミュニケーションが成り立っている。それを有効活用して、子育てや本を読む楽しさなどをつなげていけるのではないか。美術館に関しては、大分県でシャガール展をやっているのであれば、別府で同じことをやる必要はない。

(委員長) 別府市だからこそやらなくてはいけない特別展もある。それにはちゃんとした美術館がないと、作品を他所から借りることも難しい。図書館でも貴重本の管理という役割があり、そういう部分も必要。

(L 委員) それを前提として、もっと広げていけるといい。

(C 委員) まちじゅう図書館については賛成。図書館というファンクションをどのように考えるか。高い専門性のある資料をまちじゅうの図書館が提供できるのか。

(E 委員) 別府市の図書館は素晴らしい。ハコもやはり必要。どうやってまちじゅうに広げていくか。今、別府市の図書館は21万冊の蔵書がある。現在年間貸出数は28万冊である。80席ほどあり、期末試験や入試で学生が勉強しに来る。N委員のように、図書館で勉強した優秀な方も出ている。忍耐強く活用されており、様々な催し物もやっている。新たな図書館は別府市民が誇れる知識の泉となれば良い。活用や利用はアイデア次第である。別府市は145町に町内公民館がある。そこに図書があるかどうかは公民館の独自性である。

(I 委員) 構造としては、車椅子の方が出入りしやすい美術館であってほしい。

(N 委員) 現状の図書館は素晴らしいという話も出たが、現状の図書館に何が不足しているのかわからない。本を置く場所が無いのなら iPad でもいいのでは。昨日のワークショップでは Wi-Fi の整備の話も出ていた。例えば航空機内でテレビ番組も無料で見られる。機内に居るときだけダウンロードできて、見終わらなかつた場合は、その番組が終わるまでは外へ出てからも見られる仕組みである。そのように、市内だけしか見られないコンテンツをつくるなどの工夫もできるのでは。お風呂の中で防水の端末で電子書籍を読んだりもできるようになってきた。そういったことをするのに法律などの制限があるのか。

(アドバイザー) できることはたくさんある。建築の法律も変わっていく。もう少し未来的に、こんなことをやりたいという意見がこの場では出て良いと思う。

(委員長) F委員がいらっしゃったので自己紹介をお願いしたい。

**(F 委員)**

自己紹介

**(委員長)** 本来の機能をする核と、まちじゅう図書館をミックスして、有機的に結合できるものがないのではないかと方向性が出てきたと思う。次の委員会に向けて、事務局には夢を語れるような他の事例を説明いただきたい。また、今日の議論を踏まえて、別府の図書館・美術館の未来予想図をまとめていただきたい。

**(C 委員)** 宇佐市の図書館の例で、学校との連携がうまくできていると聞いた。キーになる図書館と小中学校、大学などをインターネットを利用した貸し借りができないか。

**(委員長)** まだ発言をいただいていない委員からも意見を頂戴したい。

**(H 委員)** 学校図書室の司書が今年から常勤となった。一緒に別府市立図書館の本を借りようと話している。学校の予算だけでは買える本に限りがある。子どもたちに一人一冊ずつはいきわたらない。いろいろな意見が出てきたが、核になるもの、まちじゅうに広がるもの、両方があればいいと思う。P 委員から駐車場についての意見も出ていたが、小学生は自分たちだけでは、校区内でないと行けないので親に頼る。そうすると車で行くのが一番になる。平日の夕方などは保護者が一緒に連れていくのは難しい現状がある。きちんとした図書館があって、たくさんの本を読むというだけでなく、学習に必要な専門的な本を図書館で借りたり、みんなで行って司書にいろんなことをアドバイスしてもらったりする場所と、気軽にお父さんお母さんが子どもと一緒に読める本を借りられる地域に広がる場所の両方があればと思った。

**(G 委員)** さきほど、法的に支障があるのかというお話があったので、社会教育法と、図書館法や博物館法、学校図書館法をポイントだけでも紹介してもらいたい。

**(B 委員)** 地元の人が地元のことをきちんと知って、地元のことを語れる場をつくっていききたい。別府のみなさんの熱量は非常に大きい。図書館か美術館かというのはコンテンツの違いだけである。現状の美術館を見ると、コレクションはアートにかぎらず、地域資料も管理している。住民の方が自分たちのまちを知るためのアーカイブ、地域の記憶をきちんと次に伝えられる場、これは図書館であっても美術館であっても、老若男女が普通に集える可能性がある場としてすごく大事なことだと思っている。そこにあるべきコンテンツには地域資料も含まれると思うが、自分たち地元の人たちがきちんと知った後、観光客に自分たちが紹介できるような空間を目指していけばいいのでは。

**(J 委員)** 図書館の役割として、図書館の中で本を読んだり勉強したりする場所の提供や、本を使った個人の活動は大事だが、それより拠点としての図書館の一番大きな役割は、人がいて、なんでも相談できて、まちの中や図書館のなかにある資料を使って解決してくれることはないか。話し合えば面白いことはたくさん出てくると思うが、図書館があるからこそ相談できるというのが一番シンプルで大切な役割だと思う。

**(O 委員)** 別府のイメージは「温泉でシンクロ」とか、「湯～園地」だとか、ユーモアあふれる楽しそうなまちである。そういう雰囲気図書館と美術館を考えていけたらと思う。市長も情熱あふれる面白そうな人だったので、未来が楽しそうだ。

■5 今後のスケジュールについて（予定）

(1) 委員会

第3回 12月19日（月）14時から レセプションホールにて

第4回 1月23日（月）14時から

第5回 3月初旬（予定）

(2) ワークショップ

第2回 12月18日(日)

13時から16時30分

【まちと歴史・芸術・文化と美術館】

レセプションホールにて

第3回 1月22日(日)

13時から16時30分

【まちと図書館・美術館の未来像】

■6 連絡事項

(事務局) 基本構想策定のFacebookページとサイトを随時更新している。Facebookページで概要をお知らせし、サイトのリンクをつけていく。また、ワークショップの参加者を追加募集していく予定である。興味がある方に申込書をお渡しいただきたい。サイトからもダウンロードできるように掲載をする予定である。

(ARG) 次回は美術館の議論ということになっているが、今日も申し上げたように、図書館だけを議論する、美術館だけを議論する場ではこの会議はないと思っている。美術館で議論をしながら、美術館にとってはどんな図書館であるべきなのか、図書館の議論をしながら、だったらどういう美術館であるべきなのかと、行きつ戻りつしながら、機能同士がどういうふうに関わり合っていくのかを考えていただくと、良い施設のイメージが湧いてくると思う。もうひとつ、さきほど法律等の話があったが、その辺の整合性については、私共は専門家なので、きちんと辻褄が合うようにする。あまり世の中の的に、このようなものがあるのか悪いのかということは気になされないでいただきたい。本日冒頭から今後の進め方や進め方の回数等の議論があったが、あくまで現段階では「基本構想」をまとめるところである。この次に一般的には「基本計画」が作成される。基本計画まで作成されると、ある程度拘束力のある、おいそれと変えないものになるが、構想から計画の間はかなり変わる。構想の段階では、どういうバリエーションを、この施設はどのような価値を別府市にもたらすのか、あるいは別府市民のみなさんがそこにどんな価値を見出すのかといった点がつまっていれば、細々とした部分、現実に落とし込んでいく部分には充分時間が掛けられるので、どんなものであれば地域の人々が満足するのか、意見をいただければと思う。

以上